

平成28年度第1回府中市子ども家庭支援センター運営会議録

▽日 時 平成28年7月21日（木） 午後2時から午後4時まで

▽会 場 府中市子ども家庭支援センター「たち」 ミーティングルーム

▽出 席 出席者側 西郷会長、石川副会長、本田氏、森友氏、江口氏、軽部氏、酒井氏、
内田氏、布谷氏、肥後氏、関根氏（11名）

事務局側 前澤子育て支援課長、関根同主幹兼子ども家庭支援センター所長、市
ノ川同課長補佐、石田同センター相談担当主査、荻野同センター相談
員、原田同センター事務職員、畑山多摩同胞会同センター長、寺嶋多
摩同胞会同センター係長、大喜多同センター事務職員（9名）

▽欠席者 小口氏、大伴氏、福田氏、伊藤氏（4名）

○事務局

ただいまより平成28年度第1回府中市子ども家庭支援センター運営会議を開催いたします。皆様におかれましては、御多用のところ、本会議に御出席いただきましてありがとうございます。

なお、会議の開催に当たりまして、事務局より皆様をお願いを申し上げます。本会議の内容につきまして、後日、議事録のほうを作成いたしますので、会議の音声の録音をさせていただきます。御理解いただきますようお願い申し上げます。

また、御出席の皆様よりいただいた御発言を正確に録音するために、マイクの使用をお願いいたします。マイクの受け渡しについては、事務局で行わせていただきますので、御協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、本日の出席状況について御確認させていただきます。

（出席状況確認）

○事務局

また、急な欠席がございました関係で、一部席次表と相違が出ておりますことを御容赦ください。事務局の席次につきましても一部変更したことを、ここで報告いたします。

次に、配付資料の確認をさせていただきます。

（配布資料確認）

○事務局

なお、本会議の傍聴についてですが、府中市附属機関等会期の公開に関する規則により、広報ふちゅうで周知募集したところがございますが、応募はございませんでした。また、本日の資料及び記録につきましては、本市のホームページ及び市政情報公開室等において後日公開しますので、御了承ください。

続きまして、次第の2の挨拶に移らせていただきます。本会議の開催に当たりまして、子育て支援課主幹兼子ども家庭支援センター所長より御挨拶申し上げます。

(主幹挨拶)

○事務局

本年度より2年間、こちらにお集まりいただきました皆様に出席の依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本会議の会長についてですが、前回までに引き続き、大正大学人間学部人間環境学科教授にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、皆様より順番に自己紹介をいただければと思います。

(自己紹介)

○事務局

それでは、これより先の進行につきましては、会長よろしくお願いいたします。

○会 長

それでは、まず副会長の選出を行います。選出方法については事務局より御説明いただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局

副会長の選出でございますが、副会長は会長より御指名いただきたいと思います。

○会 長

わかりました。それでは前回に引き続き府中市第6地区民生委員児童委員協議会副会長に副会長をお願いしたいと思います。一言御挨拶をいただきたいと思います。

○副会長

会長の補佐でこの隣に座らせていただきます。よろしくお願いいたします。府中市の民生委員を代表して意見を申しあげたいと思います。

○会 長

それでは、議題に入ります。平成26年度・平成27年度府中市子ども家庭支援センター事業実績について説明をお願いします。

○事務局

平成26年度・平成27年度府中市子ども家庭支援センター事業実績について、事務局よ

り説明いたします。

今回は、出席者の変更もあり、また本センター開設より11年が経過し、開設当初とは事業等も変わってきているところがございますので、事業実績について資料の2をもとに御説明した後、子ども家庭支援センター「たち」の事業等の移り変わりについて説明申し上げます。

(事務局より資料2の1～16について説明)

○事務局

続きまして、子ども家庭支援センター「たち」の事業の移り変わりをお話しします。

交流ひろばですが、先ほど利用者の人数14万4,172名ということで、毎年利用人数を更新しております。未就学児と保護者の方が対象で、0歳、1歳、2歳児が利用の中心で8割から9割がこの年齢層になるところが実情となっています。幼稚園の夏休みなどの時期になると、3歳、4歳、5歳児の就園されているお子さんの利用が増えます。本日も入館制限を実施しましたが、利用者が多すぎると安全面での不安がありますので、入館制限を実施することもあります。交流ひろばは、府中市内の方のみならず多くの方に御利用いただいております。約3割が市外の方の御利用です。年度ごとの傾向を見ると、市内の方の利用の割合が少し増えています。また、ひろば内では行事等を行っております。「スポットタイム」というお楽しみ時間を開始以来継続して週3回やっているほか、「ひろばでたち」というお母さんたちの仲間づくりのきっかけになるような交流事業を月に1回行っています。夏休みや冬休み、春休み、幼稚園の休館等、長期のお休みと重なる時期は利用者の年齢層が上がるため、塗り絵とお絵かきができるコーナーを設けたり、スタンプラリーのようなものを開催したりして、年齢の高いお子さんでも楽しめるような企画を行っています。それから各月程度の頻度でボールプールの日を作り、ひろばの3分の1のスペースにボールをたくさん出して、その中で遊んでいただけるようにしています。交流ひろばに新しく登録される方は4割程度が市内の方、残りが市外の方です。

交流会については、0歳児の交流会と1歳児の交流会を実施しております。0歳児の交流会は開設初年度から行っておりますが、市内で様々な団体が0歳児を対象にした交流会を多く行っていたので、1歳児の交流会もやろうということで始めたのが1歳児の交流会です。参加申込みは往復はがきでお願いしているのですが、必ず参加動機をお書きいただくようにしています。開始当初の1歳児の交流会の参加動機については、そのほとんどが子どもの年齢が上がったことで遊び方が変わってくるので、遊び方を知りたいというものが大多数でした。0歳児の交流会の参加動機については転入や出産までお仕事をされていた方が同じ年齢ぐらいのお子さんを持つ友達をつくりたいという声が多かったです。このことから、0歳児の交流会はお母さん同士の交流を中心としたもの、1歳児の交流会は親子で遊べるものを紹介することを中心としておりました。しかしここ数年、1歳児の交流会についても参加動機の中で、お友達づくりをしたいというニーズが高くなっていることが感じられるので、もともと交流の時間も設けていますが、開始当初よりも交流により比重をかけた交流会を実施しています。

カンガルータイムについてですが、「ようこそ赤ちゃん」は開始当初から実施している講座になります。経産婦の方向けの講座が少ないということで企画したものになります。講師には助産師を招き、新生児と同じ身長、体重ぐらいの人形を借りてきて行きます。これからお兄さん、お姉さんになる2歳から5歳のお子さんに人形を抱っこする体験をしてもらったり、お父さん、お母さんに対して出産への準備や、上のお子さんへの関わり方を学んでもらったりする講座です。2歳児を持つ親対象の講座については、2歳児のイヤイヤが出てくる時期で困っている、苦勞している利用者の声から始まったものです。また、兄妹がいる方を対象とした講座も少ないということで、「きょうだい育て」という講座を追加して行っています。「パパと遊ぼう」については、お休みの日にひろばで見られるお父さんの姿から、お父さんを対象としたものもあったほうがよいのではないかとということで始めたものです。開始当初はお母さんも一緒に参加可能ということで行っていたのですが、お母さんが中に入ってしまう、お父さんは横にいるという状況が拭えなかったので、最近はお父さんとお子さんのみの参加で実施しています。お母さんも一緒に来ている場合には、外から見てもらうという構成にしています。

リフレッシュ保育については、昨年度の延べ利用人数が2,118名ということで、今までで一番多くなりました。開設初年度の延べ利用人数は1,368名でしたので、少しずつ増加しています。府中市内に一時保育を実施している事業者が整ってきたということもあり、利用者数が落ち着いた時期がありましたが、一昨年度、昨年度はまた件数が増えてきており、今年度については既に昨年度よりも利用者数が伸びそうな状況があるので、一時保育の事業所や制度が整ってきても、保育のニーズというのは高いということを感じています。あとは、年齢的に決して、1時間800円という利用料をいただいているので、安い金額ではないですが、1歳児の御利用が近頃多いという印象を受けています。

ファミリー・サポート・センターですが、こちらは「たち」開設前の平成14年度から活動を開始しておりますので、今年で15年目になります。こちらでも17年度「たち」に移ったときの会員数が974名であったところから今現在1,912名ということで、会員数も増えておりますし、活動件数に関しても6,670件、毎年少しずつ少しずつふえてきています。依頼会員が1,414名、提供会員と両方会員を合わせて500名程ということで、依頼したい会員が多いですが、毎日全員から依頼があるわけではなく、頻度としても人それぞれですので、概ね依頼会員の要望にはお応えできているのではないかと考えています。提供会員になっていただく際には、4日間の講習会を受講していただきます。昨年度までは4日間で10時間弱の講習会を行っていましたが、府中市では幸いにも大きな事故は今までありませんが、全国的に見ると死亡事例等も活動の中で出てきており、厚生労働省からも近年、講習会については24時間を推奨ということで通知しておりますので、今年度からは24時間を超える講習会の内容に変更し、先月講習会を実施したところです。昨年度までは年間3回実施していた講習会を、今年度に関しては1回の時間が増えたというところもあるので、年間2回の実施になっております。安全な活動をしていただくためにということで、これからもこの体制で続けていきたいと考えております。今回初めて新プログラムで講習を行いましたので、内容について精査して今後につなげていきたいと考えています。以上です。

○会 長

事業の経過ということでした。府中市の子ども家庭支援センターは子ども家庭支援センターの第1号店です。府中市の取り組みには歴史があります。その中で、様々な変化や発展があったというお話でした。どんなことでも構いませんので、御質問等いかがでしょうか。

○出席者

母児ショートステイ事業について、事業の内容と、平成26年度と平成27年度の利用者がいないことの理由、また母子保健事業との関連について教えていただきたいと思います。

○事務局

実績値を見ると課題がある事業だというふうに思っておりますが、ケース対応には欠かさない事業であるため、実施している事業になります。母児デイケア事業を行っておりますが、産後6カ月以内のお母さんとお子さんが、助産院等で日中休んでいただいたり、育児手技を学んでいただいたりするという事業です。閉じこもり防止の意味合いもあります。ターゲットとしては若年妊婦で育児手技が未熟な方や、高齢出産婦で御実家にも帰れないという方などになります。広く皆さんに使っていただくというよりは、相談員が対象と思われる方に紹介しています。妊娠中から紹介して、見学に行っていただけの方はいるのですが、いざ利用となると、お子さんを連れての利用というところがハードルが高いようで、実績に結びつきにくいという実情があります。産後6カ月以内というのは保健センターでフォローされることが多いので、保健センターでも事業の周知はお願いしていますが、その後また「たち」を経由するということで、またハードルが上がってしまっていると思っております。母児デイケアを始めたときには、保健センターのほうで親支援のグループはありませんでしたが、その後産後鬱傾向が強い方への親支援グループが始まりましたので、母児デイケアよりもまずグループに誘ってみるという複数の支援の流れも確立していますので、このことも実績が伸びない理由のひとつかなと思っております。市内の助産院での実施はなく、開始当初は市外で2カ所ほどありましたが、現在は保育所1カ所で受けている状況です。今度の実施方法など検討中の部分もある事業です。

○出席者

これから特定妊婦の課題もある中で、とても重要な事業かと思っておりますので、今後も続けていただけるとありがたいです。

○会 長

今の御説明で母児デイケアのほうはよくわかりましたが、母児ショートステイのほうはどのような状況でしょうか。

○事務局

母児ショートステイですが、現在受けてもらえる事業所がなく、実績がないという形になっています。現在事業所を探しているところで、1カ所やっただけそうなところが見つ

かっておりますが、実現できるかどうかというところで研究中です。

○会 長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○副会長

資料2の8番の要保護児童対策地域協議会のうち、個別ケース検討会議が倍増しています。平成26年度に125回だったのが、平成27年度は倍増して252回になっています。こちらにも関連するようには思います。主任児童員部会長からの質問がありますので、読み上げます。「たち」や「しらとり」で行っている子育て支援の規律について、子育てに関する情報提供や相談対応、関係機関との連携調整を大変ありがたく思っております。これが検討会議の倍増にあたるかと思えます。今後は地区社協や「わがまち支えあい協議会」とどのようにつながるのか、イメージだけでもいいので教えてください。また、何か具体的な活動があれば、あわせてお聞かせください。こちら1点目です。また、たちの相談件数がふえている中で相談員の人数は変わっていないように思います。現在、9人かと思えますけれども、今後その人員を増員することは可能なのでしょうか。こちらが2点目です。よろしくお願ひします。

○事務局

1点目の「わがまち支えあい協議会」ですが、「たち」とつながったほうが良いという御意見もいただいております。子どもの居場所の提供や子育て自体の見守りなどをいただけるといふ内容を聞いております。本当につながれたら良いと思っておりますが、いきなり会議に呼ぶということはなかなか難しいものですので、要保護児童対策地域協議会を理解していただきながら、こちら「わがまち支えあい協議会」の活動状況や活動内容を知って、少しずつ理解を深めて、連携しながら子供と家庭を支援していけると良いと思っております。

○事務局

2番目に御質問いただきました相談員の増員についてですが、相談員人員増の要望は、毎年人事を担当する職員課に挙げております。しかしながら、数年前に比べ市の職員全体の数が減っておりまして、職員1名に対する市民の数が、府中市では他の自治体に比べて高く、相談員が抱えている相談件数も年々増加しており、相談員1名が約100件、あるいは継続を含めるとそれ以上の件数を抱えているのが現状です。他市に比べて府中市の相談員1名あたりの虐待等の相談対応件数はかなり多いところですので、職員の健康問題や精神的な安定等も考慮し、できれば増員したいという思いはありますが、市全体でみると難しいところがあります。他のサービスなどを充実させるなど、なるべく職員に負担がかからずに適切な支援ができるように様々な方法を模索しながら、業務にあたっているところです。今の御意見をいただいて職員一同また頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○副会長

地区社協は開設準備の段階から、実際に開設するという事で動いておりますので、引き続きの連携をよろしくお願いいたします。相談員の増員については、そこまでしか言えないというのも十分わかっておりますので、市民の声をこの記録に残すということで、発言した意味はあると思っています。ありがとうございました。

○会 長

府中市の子ども家庭支援センターでは、地域支援に人員は割かれていますか。資料2の番号でいうと、15番、16番がそれに類するのではないかはと思いますが、地域支援ワーカーなどは配置されていますか。

○事務局

地域支援ワーカーについては、東京都の想定の中にもあるところですので、人員として配置しております。ただし、地域支援のみを担当しているというよりは、ほかのケース等も抱えながら、地域支援担当というところで活動しております。11月が虐待防止月間になりますので、虐待の防止の普及啓発や懸垂幕を市庁舎に掲げるなど行っています。その他随時ボランティア養成講座やひろば交流会を委託法人と協力しながら担当が進めているところです。

○会 長

地域支援の中でも地域組織化、住民の方たちの活動を応援する役割では、社協が取り組んでいることと類似しますし、公立保育所でも地域支援を行っているというお話がありました。公立保育所では地域組織化というよりはそれ以外の地域支援を主にやっていらっしゃるようなお話でしたが、子ども家庭支援センターというのは相談援助もしますが、地域支援もするというのが柱のうちの1つですから、地域支援について、これからどういう方向性を持ってやっていくのかという課題があると思います。府中市はほかの自治体と比べて子ども家庭支援センター事業にかなり密に取り組んでいます。かなり充足度が高いと感じますが、地域支援の部分については全体像が見えづらく、地域の団体や社協、子育て支援のサークルなど、親同士が触れ合い、知り合いになれるようにという仕組みをつくっているということでしたが、その活動と地域での活動とがどう関連してくるのか、どこが束ねているのかというところで、地域支援拠点があったほうが良いなと思っていましたので、お伺いしました。ほかにはいかがですか。

○出席者

資料2の12番に親支援事業というのがありますが、具体的にどういうことをされているのかというのを詳しく教えてください。また、子育て支援プログラム「ノーバディーズパーフェクト」という活動はどういったことをされているのか教えてください。

○事務局

親支援事業のグループのことについて説明させていただきます。

資料2の上から3点のサービスについては、一般市民からの公募ではなく、「たち」の

相談ケースの中から対象になる方に勧める事業になります。上の2点のグループは、ファシリテーターの音頭のもと、お母さん同士が子供をたたいてしまうこと、ほかの友達には言えないようなこと、夫婦関係について、自分の育ち、自分の精神的な疾患についてなどを語り合っ、ほかのお母さんの気持ちや、どう子育てしているかということ参考にしなが、問題を解決します。個別の面談ですと、なかなか自分のことから外に広がることなく、一般的なこともわかりづらるので、個別相談とは違った形での問題解決ができます。

○事務局

続いてノーバティーズパーフェクトの説明をさせていただきます。

こちらは「しらとり」で開催しております。ノーバティーズパーフェクトは通称NPと略されます。カナダ発祥のプログラムが日本に入ってきて、全国的に広がっています。保育をつけて2時間、毎週1回、6回から8回の連続プログラムです。参加されたお母さんたちが、さまざまなことを話し合っ、情報を交換することでお互いを肯定的に捉え、仲間づくりをするというプログラムです。ファシリテーターが入っグループを進行していきます。何かを教えるというよりはお母さんたちの中にあるものを引き出しなが、安心して話し合える場と枠組みを作っいきます。1歳から3歳のお子さんを初めて育てているお母さんたちが対象になっており、1歳から3歳となると所属のないお子さんを持つ親御さんが多いので、完全保育制にして開催しています。6回・2時間・子どもがいないという環境の中で、お母さんたちが話したいテーマを決めて、話し合いを進めていくので、仲間づくりも深まった関係ができます。活動が終わった後もつながっていくグループもあっ、しらとりひろばで集まったり、遊びに行ったりというような関係も見られます。

○出席者

ペアレントトレーニングとはどういうものでしょうか。

○事務局

発達障害のお子さんを持つお母さんたちが、どのようにお子さんたちに声かけをしていくのか考えるというプログラムがあるのですが、このプログラムをベースにして、お子さんに関わることが不得意なお母さんを集めて、お子さんの行動を、望ましき行動、望ましくない行動、あとは命にかかわることなどに分けていただい、育児をしていると全てにイライラしてしまいがちですが、行動を止めないといけないポイント、叱るべきところのポイントなどを整理し、お子さんがどういった行動をしたら褒めるか、望ましくない行動を減らすためにはどういった行動していったらいいかというようなことを、6回コースで学ぶものになっています。こちらの事業も子ども家庭支援センターの相談を継続してくださっている方たちを対象に相談員が直接対象者に勧めます。本来の発達障害のペアレントトレーニングよりは少ボリュームを少なくして「たち」に合わせたトレーニングになっております。

○出席者

グループについてもう少し詳しく教えてください。継続相談してくれている方に勧めると

いうことでしたが、お母様方にはすんなりと受け入れてもらえるのでしょうか。それとも勧められると嫌だと思ったり、拒否反応を示したりするお母様もいるのではないかと思うのですが、勧めるときに気をつけている点など、実情も教えていただければと思います。

○事務局

各相談員がそれぞれのグループの特性や、お母さんたちの様子を鑑み、継続相談する中でグループの対象になるかどうかをあらかじめ選定しています。担当の相談員個人で決めずに、毎週1回の会議でグループに参加させるべきかどうかを、複数の相談員で協議して決めています。本人に少し人の意見を聞く余力がないと、グループに参加しても話だけ聞いているということになりますので、対象者の選定は慎重に行っています。プログラムと聞くとハードルが高く感じますが、勧めて断られるほうが少ないです。参加してみて自分に合わないようだったら途中で辞めてもいいという逃げ道も作っておりますので、今のところ絶対に嫌だという方はほぼいないという印象です。

○会 長

日本にはこのペアレント・トレーニングやペアレンティング・プログラムというものは20種類から30種類ぐらいあります。例えば発達障害のお子さんの親、少し虐待が始まっているお母さん、お父さん、また一般の親たち、子連れでもできるものなど、軽いものから重いものまであります。すぐ勉強できてすぐ使えるというものもありますから、ぜひ活用してください。ほかはいかがでしょう。

○出席者

資料2の11番の児童虐待防止ネットワーク事業について、事例検討会が平成26年度に比べて平成27年度にはかなり増えています。この点について詳しく教えてください。

○事務局

事例検討会は内部で検討してもなかなか問題の解決策や支援方針が決まらないケースについて、児童相談所経験者や大学教授にスーパーバイズをお願いしているものです。平成26年度までの事例検討の課題として、保護者の精神状況について助言いただける先生がなかなか見つからないということがありました。現在は保護者の精神状態についての助言に定期的に来てくれる先生が見つかったため、今まで相談員の中で対応に苦慮していたケースについても助言に出せるようになったことで、実績が増えています。また、去年度の特徴ですが、小学生や中学生の自殺願望のケースが増えています。学校の先生も一緒に助言を受けていただくこともあります。大人なら虚言や気を引いてということがあるかもしれませんが、子供だと突然言い出したり、本心から言っていたりという場合も考えられますので、安全を考えて細心の注意を払いながら支援するために自殺についての事例検討が増えましたので、この点も実績の伸びに繋がったのではないかと考えています。

○会 長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

○出席者

資料2の5番のカンガルータイムについて、参加組数というのは定員があるのでしょうか。

○事務局

それぞれ定員を設けて募集をしています。「ようこそ赤ちゃん」については15組程度、「2歳児のイヤイヤとどう付き合う？」については、10組程度、「パパと遊ぼう」については16組程度です。

○出席者

すべて定員があって、申込みは応募ですか。

○事務局

往復はがきで応募していただいて、定員より少し多めに当選させています。当日になって体調不良等での欠席される方がいらっしゃいますので、このようにしています。

○出席者

そうすると毎年大体資料に記載のある実績と大きな変化はないということでしょうか。

○事務局

はい。

○出席者

今より多い実績にはなることはありませんか。

○事務局

申込みの時期によるのか、全然集まらないときと、結構集まるときと大きな差があります。これは交流会もそうですが、特に0歳児の交流会については2月、3月に実施しているものもあり、そのあたりは比較のお申込みが少ないのですが、今年度は5月、6月に実施したところの2グループのうち1グループが非常にお申込みが少なく、ちょうど募集を始めたのがゴールデンウィーク中だったということが原因なのかなど、日程は注意しながらやっているつもりではありますが、想定ができないところでもありますので、苦慮しているところです。大体の交流会はお申込み定員数いっぱいで開催させていただいています。

○出席者

応募の組数と実際の当選者数がわかれば教えてください。

○事務局

前年度については、大半が抽選をしないで実施しています。0歳児の交流会で秋に実施したのについては、大きいお子さんのグループが26組程の応募がありましたので、抽選を実施しています。なるべく皆さんに参加いただけるようにグループ間の調整を適宜しておりますので、1期と3期については抽選をせずに実施できています。

1歳児対象のものについては、1期と2期に1グループずつは抽選を実施しています。こちらについては、0歳児の交流会に参加暦のある方が1歳児の交流会にもお申し込んだ場合、抽選のときには配慮するようにしています。

講座については、ほとんどが抽選を行っている状況です。申込みが少ないときに、ひろば利用者に直接お声かけさせていただいています。

○出席者

ぜひ、人気のある講座などは枠を増やしていただいて、なるべく漏れた方が参加できるような形になるようにお願いします。

○事務局

0歳児の交流会の落選者には、「ひろばでたち」というひろばでのイベントを案内しています。こちらのイベントは0歳児のお子さんが参加されることが非常に多いので、案内しています。

○出席者

ありがとうございます。

○会 長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

○出席者

私は委託業務で新生児訪問を行っておりますが、訪問日は保健センター開館日の月曜日から金曜日で、土日は訪問しないという決まりになってはいますが、あるケースで事情があり土曜日の訪問をしたときに、その方は産後鬱で、赤ちゃんはかわいくないし、もう首を絞めてしまいたいという感じで、その時は御実家にいたので大丈夫でしたが、緊急で病院などに連絡しました。ただ、緊急となると土日には対応していないところも多かったのが現状でした。子ども家庭支援センターで土日に行っている相談や事業があったら教えてください。

○事務局

土日と夜間については、平日と同じ対応は難しいというところは私たちも同じ状況です。ただ、土日でも子ども家庭支援センター自体は開いておりますので、お電話いただければ、出来る限りの対応を委託法人にて行っています。また、夜間22時までは、「しらとり」で緊急の電話相談を受付けています。子供を預けたい、死にたいということであれば警察や児童相談センターを案内しています。「たち」では時々支援中のケースで緊急のショートス

デイを使っている間に、お子さんの状態が悪かったり、お母さんが子どもに帰ってきてほしいと言っていたりという状況があるため、緊急で相談員が対応することもあります。

○出席者

母子家庭などは365日年中無休というところがあるので、私たちも土日対応を課題にすべきではないかと思っているところです。緊急時の連絡先など、なるべく周知できるようにしようと思います。

また、先ほど母児デイケア事業について、本人がその場に行くというのが課題だとお伺いしましたが、私も新生児訪問をしていると、預けに行くということのハードルが高いようなので、ファミリー・サポート・センターなどと連携をとりながら、デイケアサービス等を進められると利用していただける方の割合も上がるのではないかと感じました。

○会 長

ファミサポの方に連れ添ってもらって一緒に行くというアイデアですね。それから虐待110番もいつでも受けていただけるので、緊急の場合は利用できるのではないかと思います。警察も24時間開いています。ほかはいかがでしょうか。

○出席者

当園の保護者が、公園に遊びに行っても同じ歳の子供がいないというお話をよくされていて、その場合には「たち」を利用しているということでしたが、交流ひろばは、平日の利用者数は平均何人ぐらいいますか。

○事務局

1日の利用者数は約200名です。

○会 長

約200名というのは組数でしょうか。

○事務局

30から40組、多いと60組という組数が一度に滞在します。幼稚園のお休みの時期や、天候によっても人数が変動しますが、0組ということは今までにありません。

○出席者

ありがとうございます。よく「たち」でお友達ができて、入園を決めましたという方がいらっしゃるの、当園の保護者の多くは「たち」を利用していると思います。

○会 長

今の時代、外遊びは絶滅危惧種になっています。公園に行って子供が遊んでいないということ自体が問題ではないかと考えます。都市部の子育て支援の施設はみんな屋内化している

ので、屋外施設を持っていません。幼稚園や保育園の園舎解放、園庭解放では屋外施設があるので、そこが強みではないかと思っています。文部科学省ですら1時間程度は外で遊ばないといけないと言っています。決まった時間で遊ばないという問題でもないですが、保育園によってはお散歩を一切しないというところすら出ているので、地域の公園で遊ぶお母さんたちの仲間づくりをしながら過ごせる、その仲間関係も親分がいるような上下関係のあるものではない関係ができていく公園が市内に溢ればとても良いことです。ほかはいかがでしょうか。

○出席者

私たちの保育所も園庭解放をしています。現在は週2日間のスケジュールで、ホールも開放する日と、あえてお庭だけ解放する日をつくっていますが、お庭だけの日には人が集まりません。保護者のニーズが0歳、1歳の小さい年齢のお子さんたちが多いのではないかと思います。保護者のニーズが0歳、1歳の小さい年齢のお子さんたちが多いのではないかと思います。ホールも開放すると途端に多くの利用がありますし、さらに身長や体重の測定を行うと、さらに多くなるので、目玉商品のようなものを設けるのは良い手法のひとつではないかと思います。府中市の保育所再編のなかで、平成30年度を目指して基幹保育所が整備されたときには、園庭開放についても基幹保育所では毎日行う形を考えているところです。また、民間保育所との交流についても、基幹保育所ではより密に行う予定です。参考までに御報告です。

○会 長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○出席者

女性センターはビル内なので庭はもちろんありませんが、保育ルームを設けてあります。近頃は開放されているかどうかというところでお母さんから問合せが多くなっている印象です。お母さんが集団で来ることもあるので、利活用していただければ地域的な問題も含め良いことだと思っています。

○会 長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○出席者

資料2の8番の要保護児童対策地域協議会のなかの個別ケース検討会議についてですが、個別ケース検討会議では警察官も出席するような場合があると思いますが、府中市では検討会議のような警察が関わることのできる会議がどれくらいあるのか教えてください。

○事務局

個別ケース検討会議については、1回につきどんな機関が出席しているかというデータを持っていますので、後ほどお伝えさせていただくのでよろしいでしょうか。10件以上ある

と思います。

○出席者

わかりました。

○会 長

それでは、私から提案をさせていただければと思います。センター開設から11年経ち、新しい展開をする場合の提案です。あくまでも案ですので、御検討いただきながら実行可能なものは進めていただければ幸いです。

まず1点目は、社協等との関連でもありますが、住民の活動、民間の活動、子育て中の親たちの活動を盛り上げるということです。相談等において、問題発生件数を圧縮する効果もあると考えられます。日本ほど親が行政等からの支援に対して受身になっている国はありません。欧米などは、親たちが自分たちのサークルやグループをつくって地域の公園などで施設を借りて活動しています。これが代々引き継がれて毎年メンバーが変わっていくわけですが、このような地域での流れが出来ていれば、何から何まで行政がやらなくても良くなります。例えば、保育所に園庭がありますが、園庭で活動する親たちのグループを盛り立てたり、グループをつくったりすることが、日本ではとても少ないと思っています。地域支援には様々な課題がありますが、地域組織化を新しい焦点に掲げて、子育て支援ボランティアの養成講座や交流ひろばの交流会と、保育所やほかの子育てひろばと連携しながら、地域組織化を全市的に盛り上げてほしいと思います。そうすることで、市民同士の支え合いによって、家庭の問題や悩みは軽いうちは解決していくはずですが、東京都の子ども家庭支援センターの構想は地域支援にも取り組むという構想なので、緊急支援ももちろんですが、新たなテーマ設定として考えていただければと思います。

2点目は、運営会議では実績報告をしていただいて、実績の増減で我々は事業の進め方等について判断しますが、実績の増減は必ずしも大きな問題ではないこともあります。特に現場では顕著ではないかと思いますので、各事業目標を明示してもらいたいです。何を目指す事業なのかという目標と達成レベルも示していただきたいです。市内の0歳の子どもを持つ親の仲間づくりをするというレベル感なのか、ほかにも様々な課題があるなかで分担をしてやっていくというレベル感なのか、ファミサポで依頼会員、提供会員のバランスがとれていない地域があれば、バランスをとりながら依頼のニーズにほとんど対応できるようなレベル感なのか、というような目標も明確にしておく必要があると思います。行政としてどこまで取り組む想定なのかというところは書いておかないと、我々の期待と行政のプランに乖離が生じると、議論がかみ合わないこともあるかと思いますが、ぜひ検討材料を作っていただければ、事業にも良い影響ではないかと思います。

3点目は地域交流の拠点に子ども家庭支援センターをするということです。子育て支援の機関や団体、グループの交流を日常的に行えるような拠点です。子育て支援の事業計画で別に担うところが考えられていれば構いませんが、恐らく府中では子ども家庭支援センターになるのではないかと思います。

また関連で1点質問です。里親支援というのは子ども家庭支援センターとして行うことに

なっているかと思いますが、現在はこういった状況でしょうか。

○事務局

子ども家庭支援センターでは東京都と協力して、里親支援の市民向け講演会を毎年1回開いております。実際に里親をされている方に来ていただいて講演をしていただいたり、里親に関するDVDを見ながら意識啓発を行ったりしています。こちらは子ども家庭支援センターが全面に立って行っている事業ではありませんが、里親の募集についてのポスター掲示や募集案内などは随時行っています。それから地域祭等に参加させていただいて、啓発グッズをお配りしながら里親支援のPRを行っています。

○会 長

東京都の事業ではありますが、子ども家庭支援センターの役割として里親委託が増えていくような取組みをすることはとても重要です。私は東京都のある児童相談所の里親支援推進の委員会にも出席していますが、東京都の事業のスピード感はとても遅いので、東京都の想定のとおりに進めると国の目標である平成31年度までに22%、今の2倍ぐらいの子どもを里親さんに見てもらおうという目標は達成できないと思っています。府中市なりで良いと思いますので、積極的に取組んでいただければと思います。東京都のためではなく、里親の方や児童のためですから、同じ市民としてぜひお願いをしておきます。

それでは事業実績についてはここまでとさせていただいて、平成27年度府中市子ども家庭支援センター決算概要と平成28年度予算概要について、事務局より説明をお願いします。

<事務局より資料3-1及び資料3-2について説明>

○会 長

ありがとうございました。何か御質問はありますか。よろしいでしょうか。それでは決算と予算については報告を受けたということで、終了したいと思います。それではその他について事務局より説明をお願いします。

<事務局より次第4「その他」について説明>

○会 長

ありがとうございました。何か確認や御質問はよろしいでしょうか。それでは平成28年度第1回府中市子ども家庭支援センター運営会議を終了させていただきます。ありがとうございました。